

2016年 全国生活協同組合連合会社会福祉事業等助成事業

ひもときシートを活用した  
効果的認知症ケア事例の収集分析事業  
—ものとり妄想・収集癖に焦点を当てて—  
報告書

社会福祉法人浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター

平成29年12月

はじめに

2025年には、認知症の人の数がMCIを含め約700万人と推計されている。その介護者等を勘案すれば、およそ2,000万人以上の人々が認知症とともに暮らしてく時代が間近に迫っているといえる。

こうした中で、家族を困惑させ、対人援助サービス事業所の介護従業者さえも対応に苦慮するのが行動・心理症状(BPSD)であるとされる。しかし、ケア・エキスパートは、BPSDは、適切な対応により減少することもあることを指摘している。こうした専門技術を一般化して普及することが求められる。

このためには、個々のエキスパートが経験の上に蓄積した手法を言語化して再現性がある形にしなければならないが、ケアの事例報告はあるものの、それを蓄積・分析し標準的なケア手法の生成に高めるための実証的な研究は不足している。

様々な条件が認知症の人に作用したときにBPSDが現れ、それとは別の様々な条件が作用したときには穏やかに過ごすことができると考えれば、その諸条件を整理することにより、BPSDが現れない条件をそろえるためのケアを検討することができるのではないか。そのために平成20年に開発されたのが「ひもときシート」である。

複数のBPSDのうち、今回は、ひもときシートを活用したものとられ妄想・収集の状態にあるケースに対するケアの実践に焦点化した実践事例を収集・分析し、有効な援助モデルを構築するための研究を行った。

BPSDが認知症の人に混乱と苦痛を与えているであろうことは想像に難くない。私たちは、認知症の人を、人として大切にするための具体的な方法を求め続けている。残されている課題は多いが、本研究がその一助になれば幸甚である。

なお、多忙にもかかわらず研究に協力いただいた認知症介護研究・研修東京センターの認知症介護指導者の皆様には、心から感謝を申し上げるものである。

平成29年12月  
認知症介護研究・研修東京センター 佐藤信人

## 目次

はじめに	i
目次	ii
1. 研究の目的	1
2. 研究の方法	2
3. ワーキング委員会による検討の結果	6
4. 調査結果 1 調査協力者・対象者の概要	9
5. 調査結果 2 ものとられ妄想に関する調査結果	11
6. 調査結果 3 収集に関する調査結果	19
7. 考察	26
8. まとめ	33
執筆者一覧	44